

MC3000 管理者 リファレンス マニュアル

NTTテクノクロス株式会社

目次

1. 本書の目的.....	2
2. ハードウェアについて	3
2.1. ハードウェアの仕様	3
3. 初期登録された Windows ユーザーについて	4
3.1. MC3000 管理者(admin)	4
3.2. 踏み台利用者(user01、user02、user03).....	4
3.3. 再起動管理者(MC3000_SYSUSER)	4
4. MC3000 用クライアントプログラムの設定を変更する.....	5
4.1. パスワード	5
4.2. Proxy 情報	7
4.3. ホスト名	9
5. MC3000 の利用者を追加・変更・削除する	11
5.1. 利用者の追加・変更・削除	12
5.2. WOL サーバのバックアップ機能について	15
6. MC3000 の本体設定を変更する	18
6.1. 書き込み保護を解除する／書き込み保護に戻す手順.....	18
6.2. ネットワーク設定	20
6.3. 日付と時刻	21
6.4. Windows ユーザーのパスワード.....	22
7. 確認ツールを利用する	24
7.1. コマンドプロンプト	24
8. MC3000 を踏み台として利用する	25
8.1. リモートデスクトップ接続	25
8.2. SSH 接続	26
9. データを消去し廃棄する	27
9.1. 保存されるデータと消去方法	27
9.2. 廃棄方法	27
10. 付録	28
10.1. ライセンス情報 (PuTTY)	28

1. 本書の目的

WOL コントローラ「MC3000」は、社外から社内にあるオフィス PC の電源を遠隔で投入できる、マジックコネクト専用アプライアンスです。

本書では MC3000 のハードウェアや OS 情報、各種機能やツールの利用手順について説明します。

■ 禁止事項

以下に挙げる行為は、MC3000 が攻撃の踏み台にされるなど、セキュリティ面のリスクを生じさせます。

- 本書「6. MC3000 の本体設定を変更する」に記載されている以外の本体設定を変更する。
- MC3000 に新たなプログラムをインストールする。
- MC3000 の書き込み保護を解除した状態で運用する。

以上の禁止事項を実施した場合、MC3000 の利用により生じる直接的あるいは間接的な損害について、NTT テクノクロス株式会社は一切の責任を負いかねます。また無償保証や保守契約の対象外となります。

2. ハードウェアについて

本章では MC3000 ハードウェアの外観仕様について説明します。

2.1. ハードウェアの仕様

表明		MC3000
入出力 端子	USB ポート	前面 USB2.0×2、背面 USB2.0×3
	D-Sub15 端子	1
	DVI	1
	LAN ポート	1
電源	AC100～240V (同梱の電源ケーブルは、本製品以外の電気機器では使用できません。)	
消費電力	27.5W (最大)	
環境条件	5℃～35℃	
外形寸法	高さ 246mm x 幅 48mm x 奥行 177mm	
認証規格	UL、C-UL、TUV/GS、FCC Class B、CE RoHS 指令対応	
重量	約 1.5kg	

3. 初期登録された Windows ユーザーについて

本章では MC3000 の出荷時に初期登録された Windows ユーザーについて説明をします。

3.1. MC3000 管理者(admin)

MC3000 のメンテナンスを行うユーザーです。

※MC3000 管理者(admin)は追加登録できません。

※必要に応じてパスワードを変更してください。

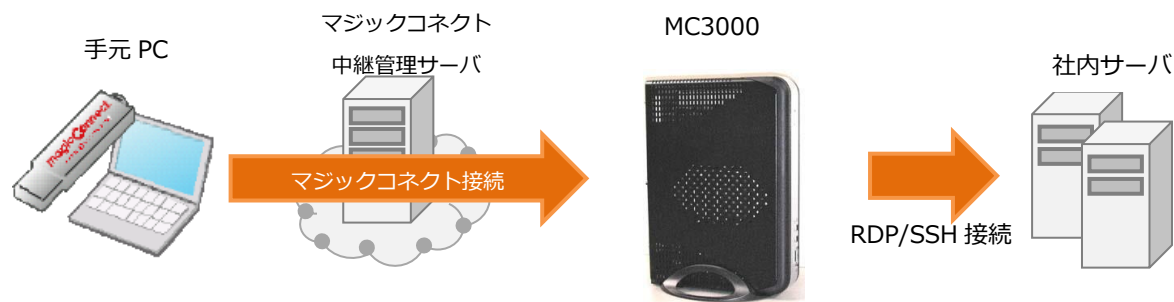
なお、MC3000 管理者(admin)のパスワードが不明な場合、MC3000 をメンテナンスできなくなります。変更後はお忘れになりませんようお願いいたします。

3.2. 踏み台利用者(user01、user02、user03)

MC3000 にアクセスし、MC3000 経由でリモートデスクトップ/SSH を使用して、社内サーバのメンテナンスを行うユーザーです。

※踏み台利用者は、登録・削除ができます。

※必要に応じてパスワードを変更してください。



3.3. 再起動管理者(MC3000_SYSUSER)

MC3000 で使用する特殊なユーザーです。

MC3000 が正常に動作しなくなりますので再起動管理者の削除・変更はしないでください。

4. MC3000 用クライアントプログラムの設定を変更する

本章では MC3000 で使用している、クライアントプログラムの各種設定方法について説明します。

4.1. パスワード

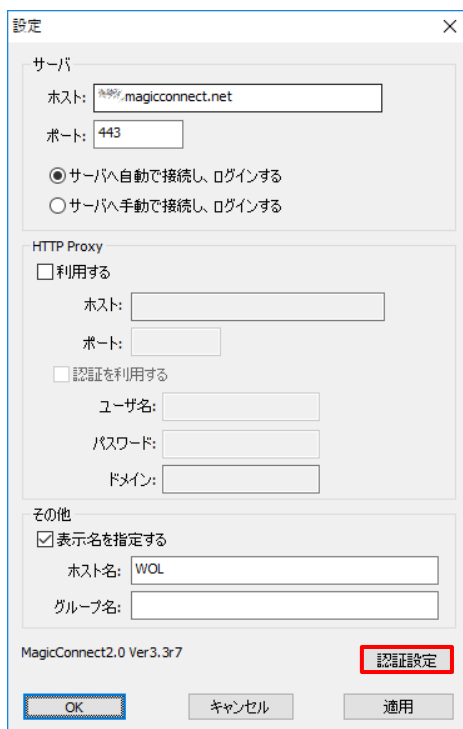
MC3000 の対象機器専用アカウントのパスワード変更を行った場合、クライアントプログラムに設定しているパスワードを変更する必要があります。

本項目ではクライアントプログラムのパスワード変更手順について説明します。

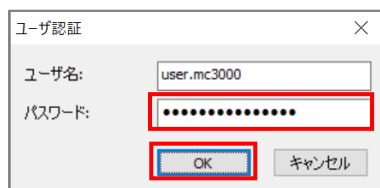
- (1) MC3000 デスクトップ画面右下の通知領域に表示されている炎マークのアイコンを右クリックし、メニューから「設定...」を選択します。



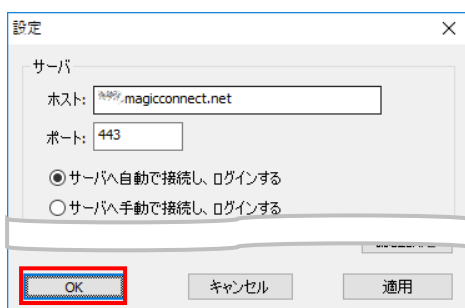
- (2) 「認証設定」をクリックします。



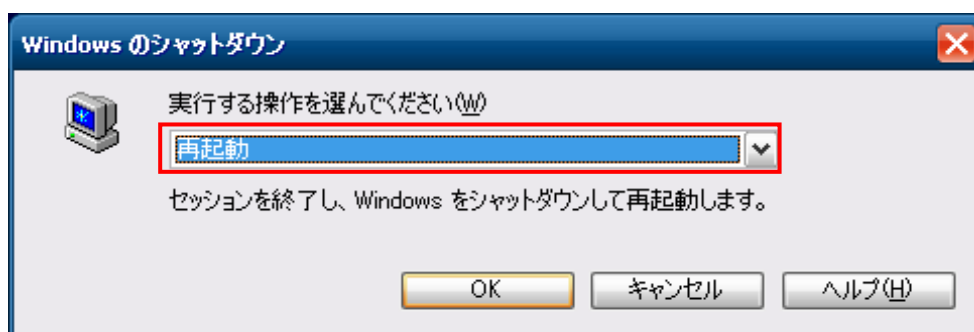
- (3) 「パスワード」欄に新しいパスワードを入力し、「OK」をクリックします。



- (4) 設定画面の「OK」をクリックします。



- (5) デスクトップの何も無いところをクリックしてから「Alt + F4」キーを押し、表示された画面で「再起動」を選択して「OK」を押し、端末を再起動します。

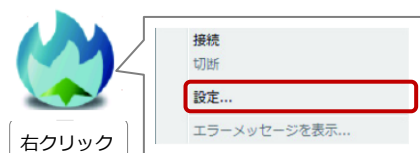


4.2. Proxy 情報

インターネット接続に Proxy を利用している場合、HTTP Proxy の設定が必要です。

本項目ではクライアントプログラムの HTTP Proxy 設定の変更手順について説明します。

- (1) MC3000 デスクトップ画面右下の通知領域に表示されている炎マークのアイコンを右クリックし、メニューから「設定...」を選択します。



- (2) 「チェック」を入れます。

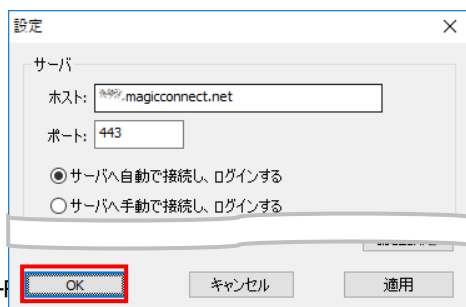
「ホスト」、「ポート」が入力可能状態になるので、利用している Proxy サーバの情報を入力します。



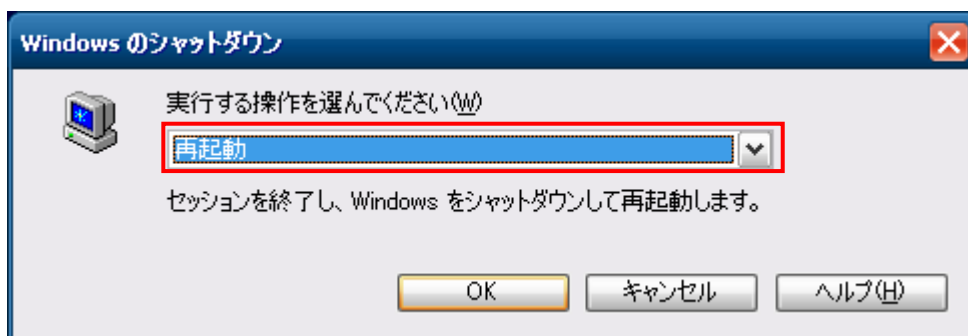
Proxy サーバで認証を利用している場合、「認証を利用する」にチェックを入れ、下部にある「ユーザ名」「パスワード」欄に(必要な場合は「ドメイン」にも) Proxy の認証情報を入力します。



- (3) 「OK」をクリックします。



- (4) デスクトップの何もないところをクリックしてから「Alt + F4」キーを押し、表示された画面で「再起動」を選択して「OK」を押し、端末を再起動します。



4.3. ホスト名

MC3000 はビューアプログラムの接続先一覧画面に「WOL」というホスト名で表示されます。

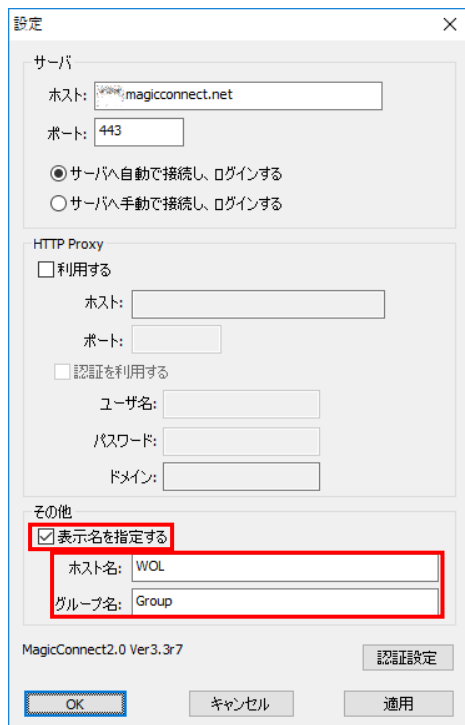
複数の MC3000 がある場合など、MC3000 を識別するために、一意なホスト名やグループ名を設定することができます。

本項目ではホスト名やグループ名の変更手順について説明します。

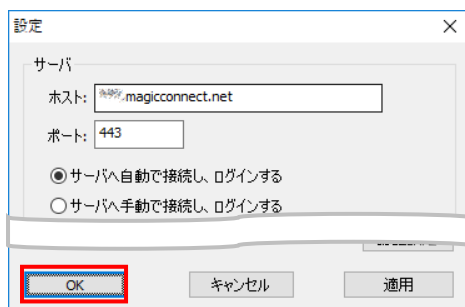
- (1) MC3000 デスクトップ画面右下の通知領域に表示されている炎マークのアイコンを右クリックし、メニューから「設定...」を選択します。



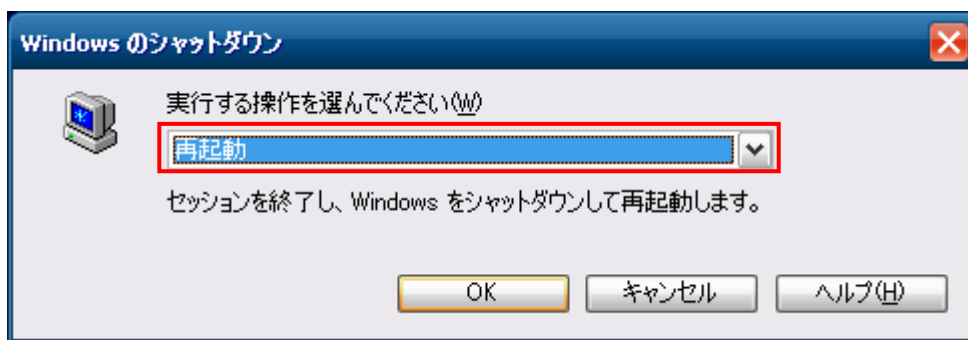
- (2) 「その他」の「表示名を指定する」にチェックが入っていることを確認し、「ホスト名」、「グループ名」を変更します。



(3) 「OK」をクリックします。



(4) デスクトップの何もないところをクリックしてから「Alt + F4」キーを押し、表示された画面で「再起動」を選択して「OK」を押し、端末を再起動します。



5. MC3000 の利用者を追加・変更・削除する

本章では遠隔起動をする利用者情報を追加・変更・削除するための手順と、保存された利用者情報のバックアップについて説明します。

利用者の登録・変更をする場合、以下の情報が必要となります。

項番	画面項目名	説明	要件
1	対象 PC 名	WOL クライアントのメインウィンドウの一覧に表示される対象 PC 名です。 利用者が識別可能な名称を設定します。	1 文字以上の文字列(必須)
2	グループ名(任意)	WOL クライアントのメインウィンドウの一覧に表示されるグループ名を設定します。	1 文字以上の文字列 (任意、未入力も可)
3	パスワード	利用者が遠隔起動する際に使用するパスワードを設定します。	1 文字以上の文字列(必須)
4	対象 PC の MAC アドレス	利用者から収集した対象機器の MAC アドレスを設定します。	12 桁の MAC アドレス(必須)
5	ブロードキャストのアドレス	利用者から収集した対象機器のネットワークと、MC3000 のネットワークから計算したブロードキャストアドレスを設定します。	ブロードキャストアドレス(必須) 同一ネットワークセグメントの場合は「255.255.255.255」を設定します。

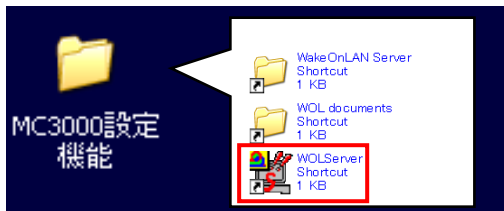
The screenshot shows a dialog box titled "PCの追加" (Add PC) with a close button (X) in the top right corner. Below the title is a section "追加するPCの設定" (Settings for adding PC). There are five numbered items, each with a corresponding input field:

- ① 対象PC名 (Target PC Name): Text box containing "会社PC01"
- ② グループ名(任意) (Group Name (Optional)): Dropdown menu showing "部署01"
- ③ パスワード (Password): Password field with 12 dots
- ④ 対象PCのMACアドレス (Target PC MAC Address): Text box containing "10-0F-1F-11-22-A1"
- ⑤ ブロードキャストのアドレス (Broadcast Address): Text box containing "255.255.255.255"

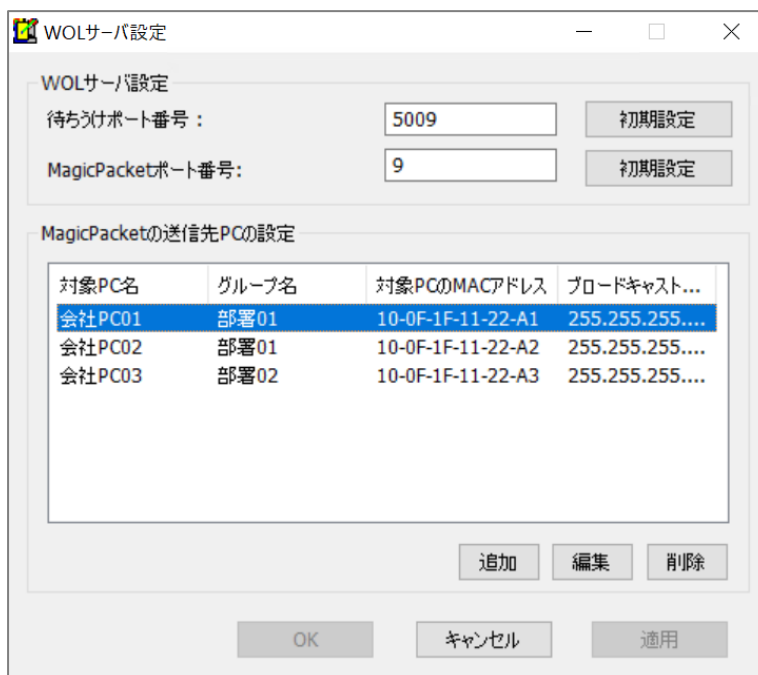
At the bottom of the dialog, there are two buttons: "設定" (Settings) and "キャンセル" (Cancel).

5.1. 利用者の追加・変更・削除

(1) デスクトップの「MC3000 設定機能」→「WOLServer」をダブルクリックします。

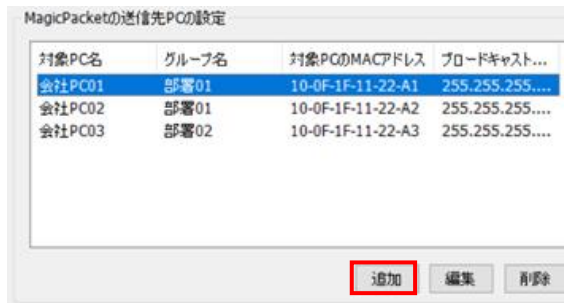


(2) 「WOL サーバ設定」画面が表示されます。

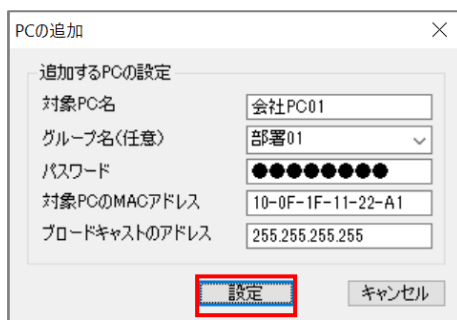


利用者を追加する場合

- ① 「追加」をクリックします。



- ② 遠隔起動させる PC の情報を登録し、「設定」をクリックします。

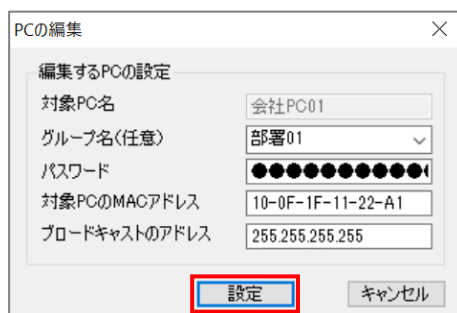


利用者情報を変更する場合

- ① 対象 PC を選択し、「編集」をクリックします。

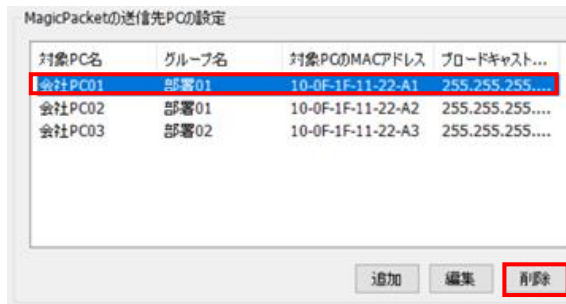


- ② 該当の箇所を変更し、「設定」をクリックします。

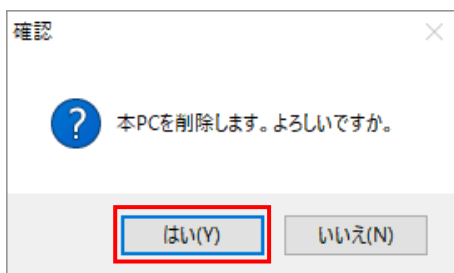


利用者を削除する場合

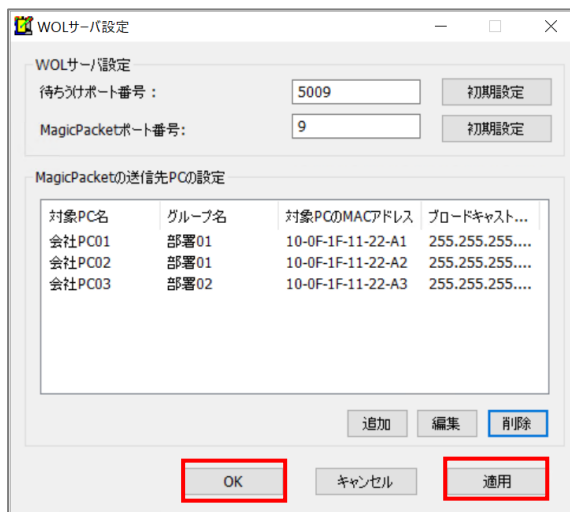
- ① 対象 PC を選択し、「削除」をクリックします。



- ② 「はい」をクリックします。



- (3) 変更後の内容が一覧に表示されます。この時点では、まだ保存されていません。



続けてユーザー情報を更新する場合は、「追加」・「編集」・「削除」をクリックします。
作業の途中で設定を保存する場合は、「適用」をクリックします。
更新を完了する場合は、「OK」をクリックします。

5.2. WOL サーバのバックアップ機能について

バックアップの仕組み

- (1) WOLServer プログラムは、設定が更新される都度、更新前の設定ファイルを MC3000 専用 USB メモリ内にバックアップします。

バックアップされた設定ファイルは、WOLServer プログラムが格納されているフォルダに、以下のファイル名で保存されます。

WOLs.bak.yyyyMMddhhmmss.fff

yyyyMMddhhmmss.fff は、ファイルがバックアップされた西暦年～ミリ秒を表します。

yyyy (西暦) MM (月) dd (日) hh (時) mm (分) ss (秒) .fff (ミリ秒)

例: WOLs.bak.20190204112411.588

2019年02月04日11時24分11.588秒に、バックアップされたことを表します。

バックアップされた設定ファイルは最大で10世代分まで保存されます。

10世代を超える場合、バックアップ日時の古いファイルから順に削除されます。

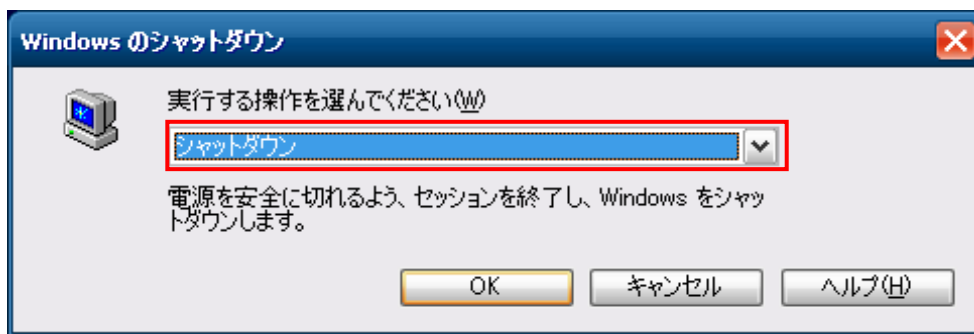
名前	更新日時
WOLServer	2012/05/25 14:13
license	2018/10/22 19:47
WOLs.bak.20190131180911.403	2019/01/31 18:09
WOLs.bak.20190205111756.774	2019/02/05 11:17
WOLs.bak.20190205112128.546	2019/02/05 11:21
WOLs.bak.20190205113317.793	2019/02/05 11:33
WOLs.bak.20190205113342.312	2019/02/05 11:33
WOLs.bak.20190205124651.543	2019/02/05 12:46
WOLs.bak.20190205124657.169	2019/02/05 12:46
WOLs.bak.20190205124800.472	2019/02/05 12:48
WOLs.bak.20190205124917.965	2019/02/05 12:48
WOLs.bak.20190228165831.233	2019/02/28 16:58
WOLs	2019/02/28 16:58

バックアップから復元する

バックアップされた設定ファイルから、設定を復元する手順を説明します。

本手順では USB メモリを編集するための PC を別途用意する必要があります。

- (1) デスクトップの何も無いところをクリックしてから「Alt + F4」キーを押し、表示された画面で「シャットダウン」を選択して「OK」を押し、端末をシャットダウンします。



- (2) MC3000 から MC3000 専用 USB メモリを取り外し、別の PC に挿します。

- (3) MC3000 専用 USB メモリの下記フォルダを開きます。

USB メモリドライブ → 「WOL for MC3000」 → 「WakeOnLAN Server」

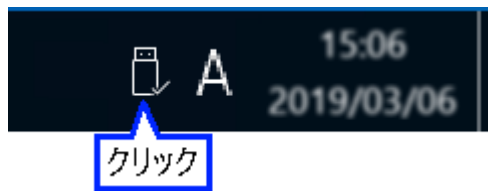
- (4) バックアップファイルを「WOLs」と置き換えます。

- ① 現在の設定ファイル WOLs をリネームします。
- ② 復元したい日にバックアップされた設定ファイルを「WOLs」にリネームします。

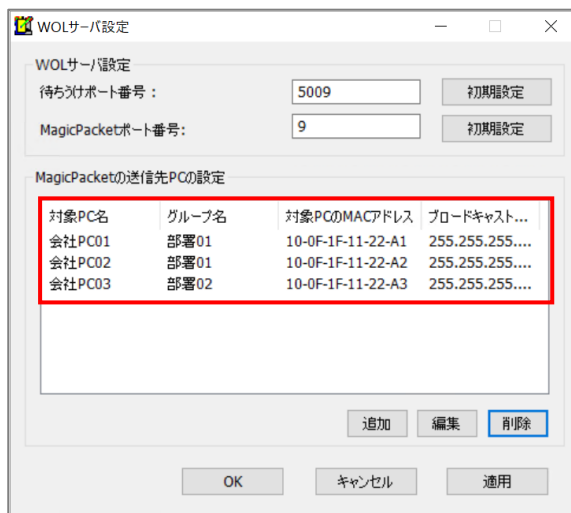
名前	更新日時
WOLServer	2012/05/25 14:13
license	2018/10/22 19:47
WOLs.bak.20190131180911.403	2019/01/30 15:28
WOLs.bak.20190205111756.774	2019/01/31 18:09
WOLs.bak.20190205112128.546	2019/02/05 11:17
WOLs.bak.20190205113317.793	2019/02/05 11:21
WOLs.bak.20190205113342.312	2019/02/05 11:33
WOLs.bak.20190205124651.543	2019/02/05 11:33
WOLs.bak.20190205124657.169	2019/02/05 12:46
WOLs.bak.20190205124800.472	2019/02/05 12:46
WOLs.bak.20190205124917.965	2019/02/05 12:46
WOLs.bak.20190228165831.233	2019/02/28 16:58
WOLs	

※拡張子は、非表示にしています。

- (5) MC3000 専用 USB メモリをハードウェアの安全な取り外しで取り外します。



- (6) MC3000 に MC3000 専用 USB メモリを差した後、電源ボタンを押して起動します。
- (7) サインイン後、WOL Server プログラムを起動して、正しく復元されているか確認をします。



6. MC3000 の本体設定を変更する

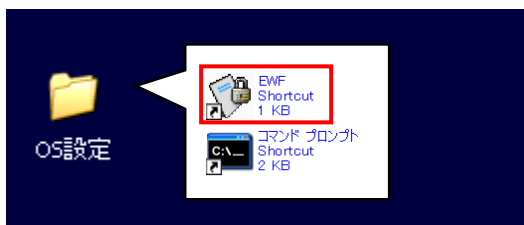
本章では MC3000 の本体設定を変更する手順について説明します。

6.1. 書き込み保護を解除する／書き込み保護に戻す手順

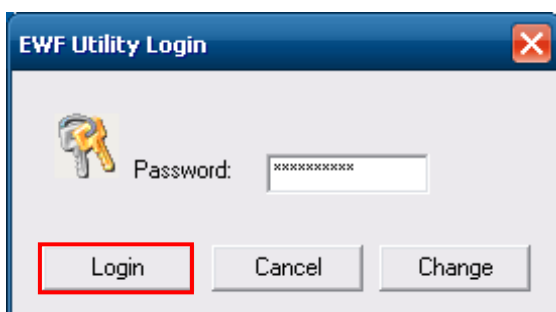
MC3000 は、書き込み保護機能(EWF)により、再起動すると変更前の状態に戻ります。
(クライアントプログラムの設定と、WOL サーバの設定を除く。)

MC3000 本体の設定を変更するため書き込み保護を解除する手順と、設定の変更後、書き込み保護に戻す手順について説明します。

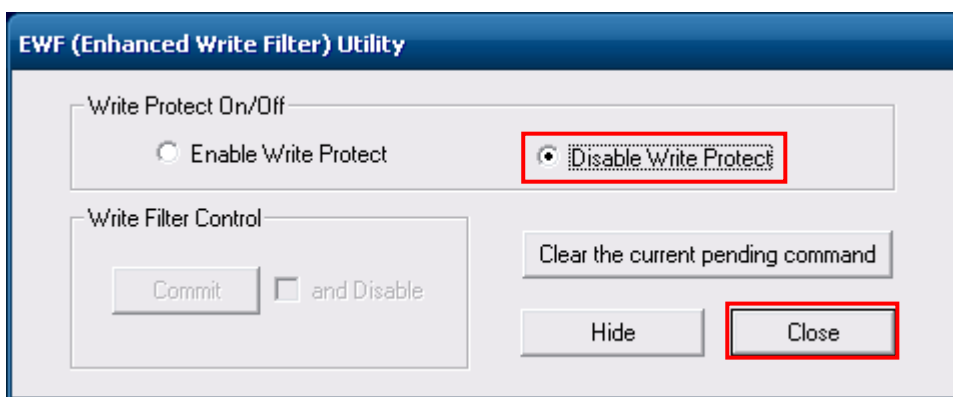
- (1) デスクトップの「OS 設定」→「EWF」をダブルクリックします。



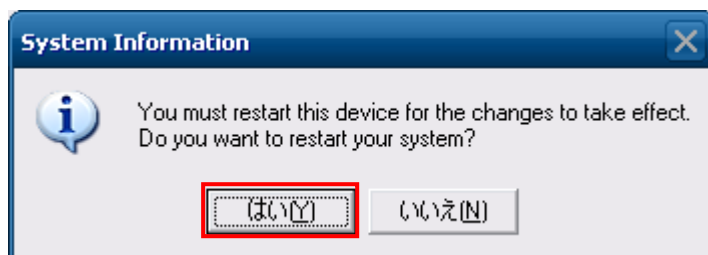
- (2) パスワードを入力し、「Login」をクリックします。パスワードは納品文書に記載しています。



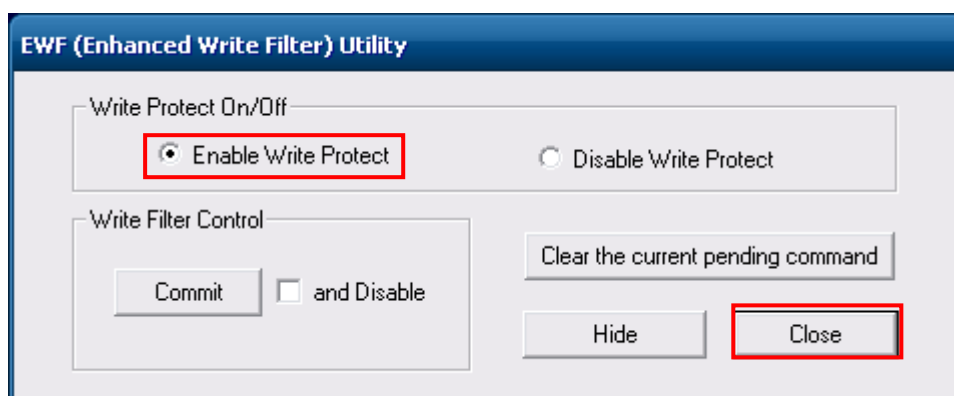
- (3) 書き込み保護を解除するには「Disable Write Protect」を選択し、「Close」をクリックします。



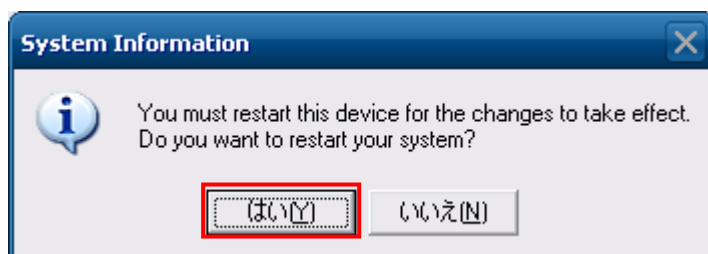
- (4) 「はい」をクリックすると、MC3000 の書き込み保護が解除された状態で再起動します。



- (5) 書き込み保護の状態にするには「Enable Write Protect」を選択し、「Close」をクリックします。



- (6) 「はい」をクリックすると、書き込み保護された状態で再起動します。

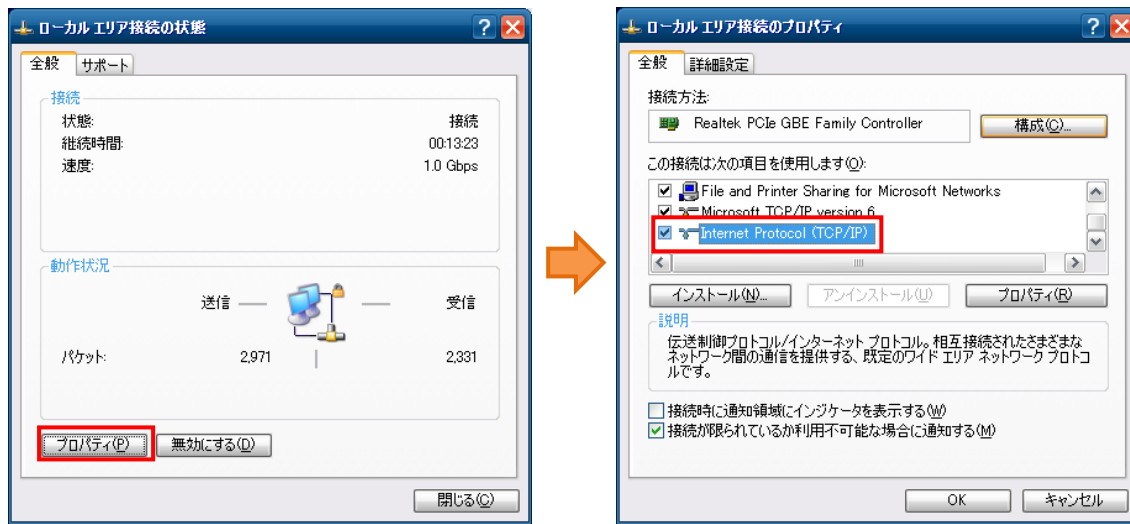


6.2. ネットワーク設定

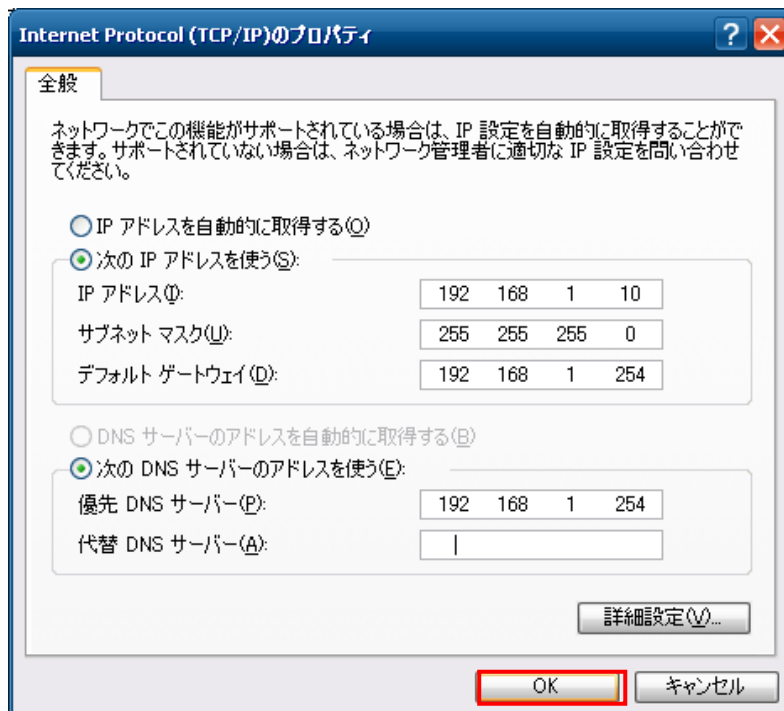
「6.1 書き込み保護を解除する／書き込み保護に戻す手順」を参照し、書き込み保護を解除してから、本項目を実施してください。

設定変更後は、必ず、書き込み保護に戻してください。

- (1) 「スタート」→「コントロールパネル」→「ネットワーク接続」→「ローカルエリア接続」→「プロパティ」→「全般」タブから「Internet Protocol (TCP/IP)」を選択し、プロパティをクリックします。



- (2) ネットワーク設定を変更し、「OK」を押します。

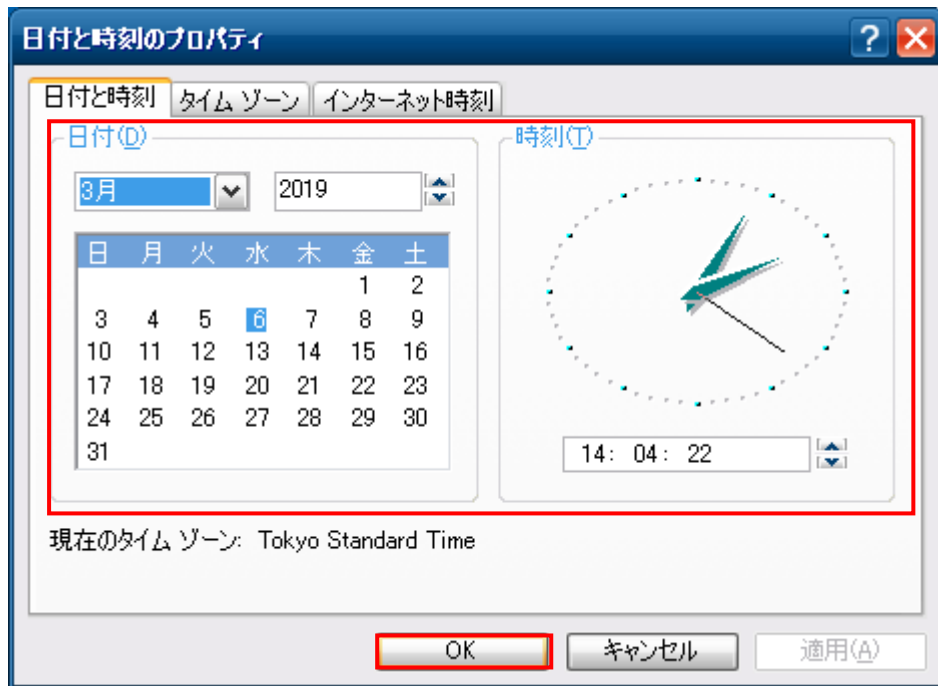


6.3. 日付と時刻

「6.1 書き込み保護を解除する／書き込み保護に戻す手順」を参照し、書き込み保護を解除してから、本項目を実施してください。

設定変更後は、必ず、書き込み保護に戻してください。

- (1) 「スタート」→「コントロールパネル」→「日付と時刻」の順に選択します。



- (2) 日付や時刻を変更し、「OK」をクリックします。

6.4. Windows ユーザーのパスワード

■ 注意事項

MC3000 管理者 [admin] のパスワードが不明な場合、MC3000 をメンテナンスできなくなります。
変更後はお忘れになりませんようお願いします。

「6.1 書き込み保護を解除する／書き込み保護に戻す手順」を参照し、書き込み保護を解除してから、本項目を実施してください。

設定変更後は、必ず、書き込み保護に戻してください。

- (1) パスワード変更する Windows ユーザーでサインインします。
 - MC3000 管理者 [admin]
 - 踏み台利用者 [user01] ～ [user03]
- (2) 「スタート」→「コントロールパネル」→「ユーザーアカウント」の順に選択し、ユーザーアカウント画面を表示します。
- (3) 「パスワードを変更する」をクリックします。



- (4) 「現在のパスワード」「新しいパスワード」「新しいパスワードの確認」を入力し、「パスワードの変更」をクリックします。

ユーザー アカウント

戻る ホーム

パスワードを変更します

現在のパスワードの入力:
●●●●●●●●

新しいパスワードの入力:
●●●●●●●●

新しいパスワードの確認入力:
●●●●●●●●

パスワードに大文字が含まれる場合は、ログオンするたびに同じように入力する必要があります。

パスワードのヒントとして使う単語や語句の入力:

パスワードのヒントはこのコンピュータを使用するすべての人が見ることができます。

パスワードの変更(C) キャンセル

7. 確認ツールを利用する

本章ではネットワークの確認をするツールについて説明します。

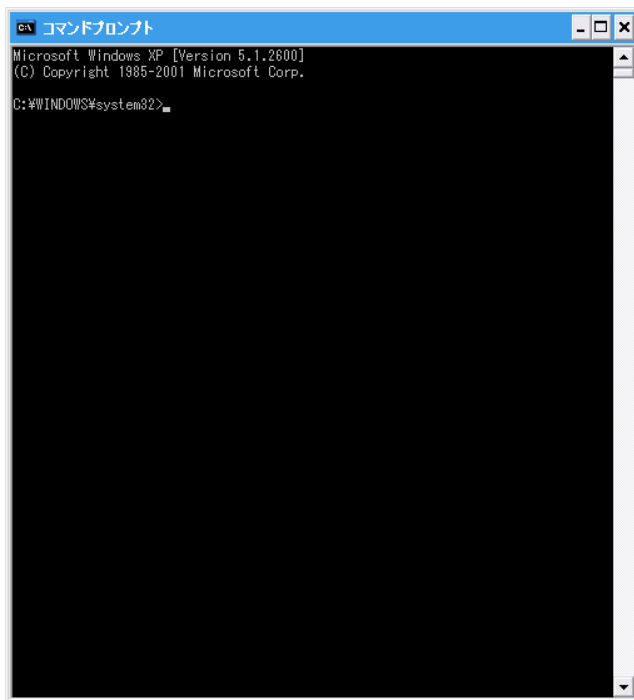
7.1. コマンドプロンプト

前項以外のコマンドを実行するために使用します。コンピュータに詳しい方のみ使用してください。

- (1) デスクトップの「OS 設定」→「コマンド プロンプト」をダブルクリックします。



- (2) 「コマンドプロンプト」画面が表示されるので、必要なコマンドを入力して使用して下さい。



8. MC3000 を踏み台として利用する

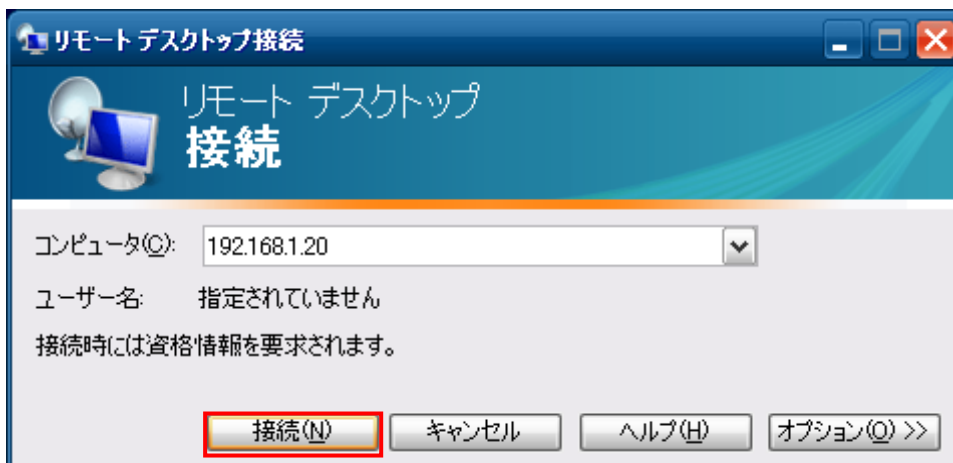
本章では MC3000 を踏み台として、社内ネットワークにある PC やサーバに対して、リモートデスクトップや SSH で接続する手順について説明します。

8.1. リモートデスクトップ接続

- (1) デスクトップの「RDP」アイコンをダブルクリックします。



- (2) 「コンピュータ」にリモートデスクトップ接続したい社内の PC 名、または IP アドレスを入力し、「接続」をクリックします。

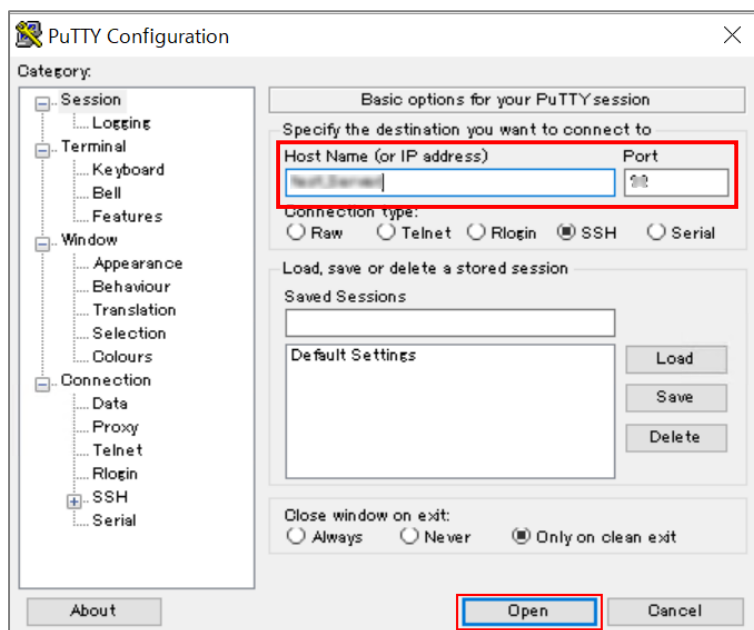


8.2. SSH 接続

- (1) デスクトップの「SSH」アイコンをダブルクリックします。



- (2) SSH で接続したい社内サーバなどの「Host Name」「Port」項目を入力し、「Open」をクリックします。



9. データを消去し廃棄する

本章では MC3000 のデータを消去し、廃棄する方法について説明します。

9.1. 保存されるデータと消去方法

MC3000 本体

MC3000 のネットワーク情報が保存されます。

本書「6.2. ネットワーク設定」の手順に従い、ネットワーク情報を削除してください。

MC3000 専用 USB メモリ

以下の情報が保存されます。

- WOL サーバに登録した対象 PC 情報
(本書「5. MC3000 の利用者を追加・変更・削除する」の設定情報)
- MC3000 用クライアントプログラムに設定した情報
(本書「4. MC3000 用クライアントプログラムの設定を変更する」の設定情報)
- SSH 接続で保存した情報
(本書「8.2. SSH 接続」の設定情報)

一般的な USB メモリと同様に、データ消去ソフトや物理破壊によってデータを消去してください。

9.2. 廃棄方法

自社ルールに従い、「サーバー機器」及び「USB メモリ」として廃棄してください。

10. 付録

10.1. ライセンス情報 (PuTTY)

MC3000 ではサードパーティ製のツールである PuTTY を利用しています。PuTTY のライセンス情報については以下の URL をご参照ください。

- PuTTY Licence

<https://www.chiark.greenend.org.uk/~sgtatham/putty/licence.html>